自己評価票

地域密着型サービス自己評価項目

（評価項目の構成）

Ⅰ.理念に基づく運営
1. 理念の共有
2. 地域との支えあい
3. 理念を実践するための制度の理解と活用
4. 理念を実践するための体制
5. 人材の育成と支援

Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援

Ⅲ.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
1. 一人ひとりの把握
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し
3. 多機能性を活かした柔軟な支援
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働

Ⅳ.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援
1. その人らしい暮らしの支援
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり

Ⅴ. サービスの成果に関する項目

【記入方法】
- 複数のユニットを持つ認知症対応型共同生活介護事業所の場合、各ユニットごとに、管理者が介護職員と協議の上記入してください。
- 次の項目は、小規模多機能居宅介護事業所のみ記入してください。
  - 項目番号23　〇初期に築く本人との信頼関係
  - 項目番号24　〇初期に築く家族との信頼関係
  - 項目番号25　〇初期対応の見極めと支援
  - 項目番号26　〇馴染みながらのサービス利用
  - 項目番号39　〇事業所の多機能性を活かした支援
- 次の項目は、認知症対応型共同生活介護事業所のみ記入してください。
  - 項目番号53　〇身だしなみやおしゃれの支援
  - 項目番号59　〇役割、楽しみごと、気晴らしの支援
  - 項目番号60　〇お金の所持や使うことの支援
  - 項目番号61　〇日常的な外出支援
  - 項目番号62　〇普段行けない場所への外出支援
  - 項目番号63　〇電話や手紙の支援
  - 項目番号64　〇家族や馴染みの人の訪問

【用語について】
- 管理者＝指定事業者としての届出上の管理者とする。「管理者」には、管理者不在の場合にこれを補佐する者を含む。
- 職員＝「職員」には、管理者及び非常勤職員を含む。

事業所名	グループホーム　まつの実
（ユニット名）	1F　ユニット
記入者（管理者）氏　名	下宮　雄司
評価完了日	平成　19　年　12　月　27　日

自己評価票

	項　　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 （すでに取組んでいることも含む）
Ⅰ．理念に基づく運営				
1．理念と共有				
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「一人ひとりに尊厳と共感を持ってかかわる」という事業所独自の理念を掲げ、それを主とし、数項目のケア目標を立て、全スタッフの意思の共有化をはかっている。		
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	玄関及びユニット内居間等の共有スペースの目立つ位置に掲示しており、申し送り時など、勤務に入る前に理念を復唱してから業務に携わっている。		
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にした理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	家族に対しては、契約時や日々の面会時に説明をしているが、地域に対しては理念の理解までは至っていない。	○	地域の行事などに参加した際は、積極的に運営理念の説明や日々のケアアプローチの理解を近隣住民の方に深めていきたい。
2．地域との支えあい				
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	近隣の顔馴染みの方などと気軽に挨拶を交わしたり、利用者様本人が近隣宅へ出向き、お茶を飲みながら談話を楽しんできたりしている。		
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	隣組に参加しており、隣組の年間スケジュールにそって、地区運動会、カラオケ大会、レクリエーションなどに参加している。又、近隣の保育園との定期交流もあり、園児達と利用者様のふれあいの場も設けている。		

項　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 （すでに取組んでいることも含む）
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	運営推進会議で検討中	○	地域の独居高齢者とのつながりを持ったり、又、在宅で高齢者を見守る家族の相談や質問等を受け入れられる様、窓口を設置したい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	スタッフ全員に評価結果を配布し、ミーティングなどで改善点を話し合っている。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議の開催回数がまだ十分とはいえず、サービス向上の反映には未だ至っていない。	○	会議の定期的な開催をし、もっと地域と意見交換をして、サービス向上の反映に努めたい。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議以外での行政との関わりは、未だない状態である。	○	会議以外での行政との関わりを模索する。
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	研修会に参加したり、ミーティングなどで理解に努めている。		
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	制度に関する研修会などに参加している。参加出来なかったスタッフへは、後日、資料等を配布したり、絶対に虐待などが起こらない様にスタッフ一同努めている。		

項　　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 （すでに取組んでいることも含む）
4. 理念を実践するための体制				
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時や解約時は、管理者と利用者様、家族と十分な話し合いの場を設け、説明を行っている。		
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情相談窓口を設けている為、苦情等があった場合は、速やかに対応出来る状態となっている。		
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	頻繁に面会に来られる家族には、随時、近況報告をしている。又、都合等により、なかなか面会に来られない家族には、毎月の請求書を送付する際、報告書を同封している。		
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情を受け入れる際は、担当者を交え、家族と話し合う場を設け、改善点などの意見は速やかに実行に移している。		
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎日の小ミーティングは元より、全体ミーティング、フロア別ミーティングを行い、意見や提案を上申してもらい、運営に反映させている。		
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	毎月のシフトにより勤務時間は固定されているが、その時の状況などに合わせ変更したり、常時、柔軟な対応が出来る様に、スタッフ同士連携を取り合っている。		

項　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 （すでに取組んでいることも含む）
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	スタッフの移動は極力避けているが、異動のあった場合のことも考え、勤務が別ユニットの利用者様にも、積極的に声掛けをして、信頼を得ながら理解を深めている。		
5. 人材の育成と支援				
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修等へは出来る限り参加をしている。新人などには、必ず研修期間を設け、先輩スタッフに指導を受けてから業務に取り組んでいる。	○	全員のスタッフが研修を受けられる機会が少ない為、それらを改善していきたい。
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他施設との交流をあまり持てていないのが現状である。	○	他施設との交流機会を作り、合同で会を催したり、スタッフの実習などを行いたい。
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	毎月のシフト作成時、希望休をスタッフ各自申告してもらい、出来る限り希望通りのシフトを作成している。又、年2回の慰労会があり、自由参加でストレスの軽減をはかっている。		
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	スタッフから研修に参加したいという申し出があった場合には、速やかに参加出来るよう配慮している。		

項　　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 （すでに取組んでいることも含む）
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1．相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応（小規模多機能居宅介護事業所のみ記入）				
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている（小規模多機能居宅介護）			
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている（小規模多機能居宅介護）			
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている（小規模多機能居宅介護）			
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している（小規模多機能居宅介護）			
2．新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	日常生活の家事は元より、買い物や散歩、園芸、健康体操、歌などを利用者様の意思を尊重し、一緒に行っている。又、全スタッフは、利用者様との会話を特に重要視しており、日中は談笑の声がよく聞こえている。		

項　　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 （すでに取組んでいることも含む）
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族が面会の際には、家族と当施設の要望などを話し合ったり、協力関係を築く努力をしている。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	家族から外出や外泊の要望があった場合、特別な制約や体調不良でない限り、気軽に外出に応じ、家族関係を築いてもらっている。	○	ホームでの行事への家族参加があまりみられない為、積極的に家族にも声を掛け、参加して頂く。
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会や手紙、電話などで、家族に協力してもらいながら、馴染みの人との連絡が取れるよう支援している。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	孤立しやすい利用者様に対しては、スタッフと1対1や、少人数でのアプローチを行っている。		
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	退去された方の家族が来訪して下さったりと、お付き合いが現在も続いている。		

項　　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 （すでに取組んでいることも含む）
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1．一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の生活での行動や会話などから、本人が何を希望し訴えているのか、さりげなく聞き出し、対応している。全スタッフが把握出来る様、全て記録に残し、申し送りをしている。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に、本人と家族を含め、過去の生活歴や経験等を聞き出し、サマリーを作成して、全スタッフが把握出来る様に努めている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	毎日、利用者様の行動は、ケース記録に細かく記入し、スタッフは毎日の生活パターンを把握しながら支援を行っている。又、別ユニットにて異常があった場合は、スタッフ連絡帳にて別ユニットスタッフに申し送りをして、情報の共有化をはかっている。		
2．本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映した介護計画を作成している	本人、家族からの要望などを取り入れ、専門職種との連携を図りながら、介護計画を作成している。		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の期間に応じて、見直しを行っている。必要に応じ、ケアカンファレンスを開き、話し合いをし、介護計画の見直しをしている。	○	ケアカンファレンスを定期的に行っていく方向で検討していく。

項　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 （すでに取組んでいることも含む）
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別のケース記録に記入し、朝の申し送りの前に目を通すようにしている。		
3．多機能性を活かした柔軟な支援（小規模多機能居宅介護事業所のみ記入）				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている（小規模多機能居宅介護）			
4．本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	ボランティアの受け入れ程度までしか行われていないが、年2回実施されている避難訓練には、消防署の協力を仰ぎ、実際に総合訓練を行っている。	○	近隣の地域資源で活用できるものはないのか、改めて模索していきたい。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	他のサービス事業者の活用はしていない。	○	他のサービス事業者の模索をしていきたい。
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	地域包括支援センターと協働はとっていない。	○	地域包括支援センターと連携を図って、利用者様により良いサービスを提供できるように勧めていきたい。

項　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 （すでに取組んでいることも含む）
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	当施設は、医療機関と併設されており、医師、看護師とも連絡を密にし、24時間相談可能な体制になっている。		
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	併設する医療機関から、週一回の往診があり、健康管理がなされている。必要に応じて適切な検査も受けている。		
45				
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院した場合、その後の状況について、常に医師や看護師と連携が取れる体制となっている。又、利用者様が入院された場合、必ず1日1回はスタッフが入院状況の様子を確認する為、面会を行っている。		
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	家族や医師との話し合いを持ち、医師からの指示や家族からの同意をもらい、今後の利用者様の支援を話し合って決定している。		
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	医師との相談や指示により、入院時期を決定している。又、入院時までは、医師の指示により、出来る範囲までの支援をスタッフ同士検討し、支援を行っている。		

項　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 （すでに取組んでいることも含む）
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	住み替えは、病院への入院が主であり、その際も家族や医師と密に連絡を取り合って、支援をしている。	○	当施設に入居され、自宅や他施設に転居された利用者様がいない為、今後は、他に転居されたいと要望があった時の事を考慮し、速やかに対応出来る環境を作っていきたい。
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 **1．その人らしい暮らしの支援** （1）一人ひとりの尊重				
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	スタッフ全員が笑顔を心がけ、会話中の声のトーンにも気をつけている。記録等も、全て１ヶ所にまとめ、利用者様の目に付かない様に対応している。		
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	利用者様の意思や気持ちを大切にし、あくまでも本人の意思を第一に優先しながら、スタッフはさりげない介助に努めている。		
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様の生活リズムに配慮しながら、起床、就寝、入浴、食事など、本人の生活ペースで対応している。強制にならない様声掛けをし、本人が拒否の意思を示した場合は、別アプローチや見守りにて対応している。		
（2）その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援（53は、認知症対応型共同生活介護事業所のみ記入）				
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容･美容は本人の望む店に行けるように努めている（認知症対応型共同生活介護）	近隣に理髪店があり、ＩＡＤＬのレベルが高い利用者様は出向いて散髪をしに行かれている。施設から出向くのが困難な方には、理容師に出張してもらっている。又、昔からなじみのある店を持っている利用者様は、家族やスタッフが同行し、それらの店を利用している。		

項　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 （すでに取組んでいることも含む）
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	料理の下準備や配膳、下膳など、出来る事は手伝ってもらい、栄養士の協力により、各個人に合わせたメニューを提供している。	○	利用者様とスタッフが一緒になり、食卓を囲む状況があまり見られない為、常に一緒に食事を摂れる様な環境を整えていきたい。
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	おやつや飲み物は自由に好みの物を飲食してもらっている。たばこやお酒類はトラブルを避ける為、入居前に本人と家族に説明し、原則禁止としている。		
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排尿、便チェック表に記録し、個々のパターンや兆候を把握し、排泄の自立に向けての声掛け、誘導を行っている。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	毎日、入浴が出来る環境となっており、その日の入浴担当者が、本人の希望やタイミングを声掛けにより判断し、入浴を決定している。又、入浴拒否者や医師からの入浴禁止の指示がある方に関しては、清拭にて対応している。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	本人の生活リズムで、昼寝や就寝時間を決定してもらっている。夜間不眠者に対しては、日中声掛けをし、活動を促すことで、夜間の安眠を支援している。		
（3）その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援（認知症対応型共同生活介護事業所のみ記入）				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている（認知症対応型共同生活介護）	各利用者様の得意分野などをスタッフが把握し、それぞれに合わせて、活力ある生活が過ごせる様に支援している。		

項　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 （すでに取組んでいることも含む）
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している（認知症対応型共同生活介護）	利用者様や家族の希望により、金銭を把握し、鍵のかかるところで保管し、日用品等の買い物には一緒に行ってもらい、本人に支払ってもらっている。家族には、担当者が毎月の収支決算をし、残額報告書を作成し、配布している。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している（認知症対応型共同生活介護）	買い物や散歩などは、その日の天候や体調により判断し支援している。又、外出を嫌う利用者様に関しては、外気浴として当該施設、玄関前周辺に誘導し、お茶飲みなどを促して、室内に閉じこもらない用に努めている。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している(認知症対応型共同生活介護)	利用者様からの外出要望があった場合は、スタッフが個別に付き添い対応している。家族が付き添わなければならない状況の時は、協力を仰いでいる。		
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている（認知症対応型共同生活介護）	電話や手紙等のやり取りは、事前に家族の承諾をとったうえで、対応している。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している（認知症対応型共同生活介護）	誰でも面会の訪問は自由である。しかし、夜間の面会に関しては、やむを得ない場合を除いてはお断りしている。（利用者様が不穏になってしまう為）		
（4）安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしない支援を行っており、スタッフは身体拘束の研修にも参加し、理解を深めている。		

項　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 （すでに取組んでいることも含む）
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	フロア玄関の出入り口は施錠しておらず、自由に行き来出来る。玄関は出てすぐ外が道路で、交通量も多く、やむを得ず施錠しているが、家族の了解を得ている。又、利用者様の外出は自由であり、必ずスタッフが付き添っている。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	常にリビング全体を見渡せる位置にスタッフを配置し、見守りを行っている。自室で過ごされている利用者様には、スタッフが交代で声掛けしに訪室し、状況を把握している。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	洗剤類や薬品類は、全て当施設で管理している。はさみなどの刃物類に関しては、家族と相談して決定しており、使用する際には、スタッフの見守りのうえで使用している。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	毎月1回の安全、感染、連絡、給食各委員会に出席し、報告、発表等を行い、事故防止に取り組んでいる。与薬に関しては、薬を準備する者と与える者とを分担し、誤薬防止に努めている。		
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	緊急時対応マニュアルを作成しており、全スタッフが共有出来る場所に張り出してある。又、看護師によるスタッフ訓練もミーティング時に日常的に行われている。		
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	当該施設独自の災害対応マニュアルを作成し、年2回の避難、火災訓練を実施している。消防署の協力を得て総合訓練を行っている為、全スタッフは119番通報から、避難誘導、初期消火まで行える。又、年1回の市消防大会にも交代で参加している。	○	消防署の協力は得ているが、地域住民との連携はとっていない為、推進委員会などで呼びかけたい。

項　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 （すでに取組んでいることも含む）
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にした対応策を話し合っている	事前に家族にはリスクと対策について説明し、日頃から状態の変化を報告し、話し合っている。	○	都合により、なかなか面会に訪れられない利用者様の家族には、日々変化しやすい状態を話し合う機会が持てない為、今後は、話し合いの場を持てる様、努めていきたい。
（5）その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎日のバイタルチェック表を作成し、起床時や入浴前など、バイタル測定を行い記入している。体調の変化が見られる利用者様がいた場合、速やかに併設する病院に報告し、指示を仰いでいる。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋ファイルを作成し、服薬については、準備する人と毎食後に配布する人とを分担し、ダブルチェック方式を取り入れており、利用者様が薬を飲むまで見守り、チェック表に確認のサインをしている。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	排泄記録表にて個々の排泄パターンを把握し、下剤の必要な方には、主治医と相談し、コントロールしている。飲食物に関しては、栄養士に排便しやすい食物の情報を助言してもらっている。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	食後や就寝前に、声掛けにより口腔ケアを行ってもらっている。ケアの困難な方には、スタッフが介助している。又、併設する医療機関のＳＴから、週2回の指導を受けている。		
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事に関しては、全て栄養士が管理をしており、スタッフとの話し合いで、個別にも対応をしている。水分量も、毎日水分チェック表に記入し、水分量を一目で把握出来る様にしている。		

項　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 （すでに取組んでいることも含む）
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、ＭＲＳＡ、ノロウイルス等）	日々の手洗い、うがい等の徹底。汚物などは、ゴム手袋での対応を義務付けており、利用者様、スタッフ共にインフルエンザワクチンの接種や検便検査などを行っている。又、月1回の感染委員会に出席して、予防や対応策を確認している。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	毎日、食材は使い切ることで対応し、生物には調理用温度計で測定して、十分火を通している事を確認している。調理器具やキッチン周りなどは、夜勤者が毎日塩素系溶剤やアルコールなどで消毒を行っている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり **（1）居心地のよい環境づくり**				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関前やベランダに、季節の鉢植え等が設置され、和やかな雰囲気作りをしている。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	廊下、リビング、居室の入口等に、利用者様が作成した装飾品や、手作りの日めくりカレンダー等を置き、家庭的な雰囲気と清潔感のある共有空間作りに配慮している。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間にて独りになれるスペースがなく、居室を利用し対応している。	○	スペースの確保を考慮して、テーブルやソファーなどを設置していきたい。

項　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 （すでに取組んでいることも含む）
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族等の協力を得て、自宅で使用していた馴染みのある物を持ち込んで、本人が居心地よく思えるような居室作りになっている。（食器類、衣類、布団、家具など）		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	定期的に換気を行い、冷暖房機器や加湿器などで、温度や換気の調節を行っている。		
（2）本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	共有空間、浴室、トイレ、居室内、廊下などに手摺りが取り付けられており、それらにて対応している。又、各居室には、非常時ボタンが設置されており、非常時には活用するようにしている。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	自室やトイレなどには、分かり易い目印などを掲げ、スタッフも必要以上に介助せず、声掛け、見守りを主として、さりげない誘導を心掛けている。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	ベランダや建物の外周りには、鉢植え程度しか出来ない設計となっている為、大きな活動は困難となっている。	○	近隣で活動が出来る空間があるかどうか、探索していきたい。

（　　部分は外部評価との共通評価項目です　）

Ｖ．サービスの成果に関する項目

項目		取り組みの成果 （該当する箇所を○印で囲むこと）
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の２/３くらいの ③利用者の１/３くらいの ④ほとんど掴んでいない ⑤その他（　　）
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	①毎日ある ②数日に１回程度ある ③たまにある ④ほとんどない ⑤その他（　　）
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の２/３くらいが ③利用者の１/３くらいが ④ほとんどいない ⑤その他（　　）
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の２/３くらいが ③利用者の１/３くらいが ④ほとんどいない ⑤その他（　　）
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の２/３くらいが ③利用者の１/３くらいが ④ほとんどいない ⑤その他（　　）
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の２/３くらいが ③利用者の１/３くらいが ④ほとんどいない ⑤その他（　　）
94	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の２/３くらいが ③利用者の１/３くらいが ④ほとんどいない ⑤その他（　　）
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	①ほぼ全ての家族と ②家族の２/３くらいと ③家族の１/３くらいと ④ほとんどできていない ⑤その他（　　）
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない ⑤その他（　　）

項　目		取り組みの成果 （該当する箇所を○印で囲むこと）
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない ⑤その他（　　）
98	職員は、活き活きと働けている	①ほぼ全ての職員が ②職員の２/３くらいが ③職員の１/３くらいが ④ほとんどいない ⑤その他（　　）
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の２/３くらいが ③利用者の１/３くらいが ④ほとんどいない ⑤その他（　　）
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の２/３くらいが ③家族等の１/３くらいが ④ほとんどできていない ⑤その他（　　）

【特に力を入れている点・アピールしたい点】
（この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。）

・利用者様の生活パターンに合うように、又、利用者様の要望に出来る限り応じることが出来る様に努めている。
・リハビリの必要な利用者様は、定期的にリハビリを施行している。又、状態に応じ、ＰＴにホームへ来てもらっている。
・毎月、行事はあるが、大きな行事は、2ユニット合同で行っている。
・月に１回、近隣の保育所との交流を実施し、利用者様と園児との関わりをもっている。
・隣接された病院と常に連携を図り、利用者様の急変時など、速やかに対応できるようになっている。

自己評価票

地域密着型サービス自己評価項目

（評価項目の構成）

Ⅰ.理念に基づく運営
1. 理念の共有
2. 地域との支えあい
3. 理念を実践するための制度の理解と活用
4. 理念を実践するための体制
5. 人材の育成と支援

Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援

Ⅲ.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
1. 一人ひとりの把握
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し
3. 多機能性を活かした柔軟な支援
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働

Ⅳ.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援
1. その人らしい暮らしの支援
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり

Ⅴ. サービスの成果に関する項目

【記入方法】
- 複数のユニットを持つ認知症対応型共同生活介護事業所の場合、各ユニットごとに、管理者が介護職員と協議の上記入してください。
- 次の項目は、小規模多機能居宅介護事業所のみ記入してください。
  - 項目番号23　〇初期に築く本人との信頼関係
  - 項目番号24　〇初期に築く家族との信頼関係
  - 項目番号25　〇初期対応の見極めと支援
  - 項目番号26　〇馴染みながらのサービス利用
  - 項目番号39　〇事業所の多機能性を活かした支援
- 次の項目は、認知症対応型共同生活介護事業所のみ記入してください。
  - 項目番号53　〇身だしなみやおしゃれの支援
  - 項目番号59　〇役割、楽しみごと、気晴らしの支援
  - 項目番号60　〇お金の所持や使うことの支援
  - 項目番号61　〇日常的な外出支援
  - 項目番号62　〇普段行けない場所への外出支援
  - 項目番号63　〇電話や手紙の支援
  - 項目番号64　〇家族や馴染みの人の訪問

【用語について】
- 管理者＝指定事業者としての届出上の管理者とする。「管理者」には、管理者不在の場合にこれを補佐する者を含む。
- 職員＝「職員」には、管理者及び非常勤職員を含む。

事業所名	グループホーム　まつの実
（ユニット名）	2F　ユニット
記入者（管理者）氏　名	若月　香里
評価完了日	平成　19　年　12　月　27　日

自己評価票

	項　　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 （すでに取組んでいることも含む）
Ⅰ．理念に基づく運営				
1．理念と共有				
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「一人ひとりに尊厳と共感を持ってかかわる」という事業所独自の理念を掲げ、それを主とし、数項目のケア目標を立て、全スタッフの意思の共有化をはかっている。		
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	玄関及びユニット内居間等の共有スペースの目立つ位置に掲示しており、申し送り時など、勤務に入る前に理念を復唱してから業務に携わっている。		
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にした理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	家族に対しては、契約時や日々の面会時に説明をしているが、地域に対しては理念の理解までは至っていない。	○	地域の行事などに参加した際は、積極的に運営理念の説明や日々のケアアプローチの理解を近隣住民の方に深めていきたい。
2．地域との支えあい				
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	近隣の顔馴染みの方などと気軽に挨拶を交わしたり、利用者様本人が近隣宅へ出向き、お茶を飲みながら談話を楽しんできたりしている。		
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	隣組に参加しており、隣組の年間スケジュールにそって、地区運動会、カラオケ大会、レクリエーションなどに参加している。又、近隣の保育園との定期交流もあり、園児達と利用者様のふれあいの場も設けている。		

項　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 （すでに取組んでいることも含む）
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	運営推進会議で検討中	○	地域の独居高齢者とのつながりを持ったり、又、在宅で高齢者を見守る家族の相談や質問等を受け入れられる様、窓口を設置したい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	スタッフ全員に評価結果を配布し、ミーティングなどで改善点を話し合っている。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議の開催回数がまだ十分とはいえず、サービス向上の反映には未だ至っていない。	○	会議の定期的な開催をし、もっと地域と意見交換をして、サービス向上の反映に努めたい。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議以外での行政との関わりは、未だない状態である。	○	会議以外での行政との関わりを模索する。
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	研修会に参加したり、ミーティングなどで理解に努めている。		
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	制度に関する研修会などに参加している。参加出来なかったスタッフへは、後日、資料等を配布したり、絶対に虐待などが起こらない様にスタッフ一同努めている。		

項　　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 （すでに取組んでいることも含む）
4. 理念を実践するための体制				
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時や解約時は、管理者と利用者様、家族と十分な話し合いの場を設け、説明を行っている。		
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情相談窓口を設けている為、苦情等があった場合は、速やかに対応出来る状態となっている。		
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	頻繁に面会に来られる家族には、随時、近況報告をしている。又、都合等により、なかなか面会に来られない家族には、毎月の請求書を送付する際、報告書を同封している。		
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情を受け入れる際は、担当者を交え、家族と話し合う場を設け、改善点などの意見は速やかに実行に移している。		
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎日の小ミーティングは元より、全体ミーティング、フロア別ミーティングを行い、意見や提案を上申してもらい、運営に反映させている。		
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	毎月のシフトにより勤務時間は固定されているが、その時の状況などに合わせ変更したり、常時、柔軟な対応が出来る様に、スタッフ同士連携を取り合っている。		

項　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 （すでに取組んでいることも含む）
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	スタッフの移動は極力避けているが、異動のあった場合のことも考え、勤務が別ユニットの利用者様にも、積極的に声掛けをして、信頼を得ながら理解を深めている。		
5. 人材の育成と支援				
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修等へは出来る限り参加をしている。新人などには、必ず研修期間を設け、先輩スタッフに指導を受けてから業務に取り組んでいる。	○	全員のスタッフが研修を受けられる機会が少ない為、それらを改善していきたい。
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他施設との交流をあまり持てていないのが現状である。	○	他施設との交流機会を作り、合同で会を催したり、スタッフの実習などを行いたい。
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	職員とのコミュニケーションを大切にし、常に話し合う場を設けている。又、勤務作成もなるべく希望通りの勤務で働いてもらっている。		
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	研修などは出来る限り参加してもらっている。	○	今後も色々な研修に参加してもらい、介護の質の向上などに取り組んでいきたい。

項　　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 （すでに取組んでいることも含む）
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1．相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応（小規模多機能居宅介護事業所のみ記入）				
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている（小規模多機能居宅介護）			
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている（小規模多機能居宅介護）			
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている（小規模多機能居宅介護）			
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している（小規模多機能居宅介護）			
2．新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者様のペースに合わせ、一緒に買い物や散歩、レクリエーションなどを行っている。又、利用者様との会話を特に重要視しており、日中は談笑の声が聞こえている。		

項　　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 （すでに取組んでいることも含む）
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族が面会の際には、家族と当施設の要望などを話し合ったり、協力関係を築く努力をしている。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	家族から外出や外泊の要望があった場合、特別な制約や体調不良でない限り、気軽に外出に応じ、家族関係を築いてもらっている。	○	ホームでの行事への家族参加があまりみられない為、積極的に家族にも声を掛け、参加して頂く。
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会や手紙、電話などで、家族に協力してもらいながら、馴染みの人との連絡が取れるよう支援している。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	食事の時の席に工夫をしたり、リビングのソファーの配置を工夫し、利用者様同士がコミュニケーションしやすい環境作りを心がけている。		
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	退去された方の家族が来訪して下さったりと、お付き合いが現在も続いている。		

項　　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 （すでに取組んでいることも含む）
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1．一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の生活での行動や会話などから、本人が何を希望し訴えているのか、さりげなく聞き出し、対応している。全スタッフが把握出来る様、全て記録に残し、申し送りをしている。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に、本人と家族を含め、過去の生活歴や経験等を聞き出し、サマリーを作成して、全スタッフが把握出来る様に努めている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	毎日、利用者様の行動は、ケース記録に細かく記入し、スタッフは毎日の生活パターンを把握しながら支援を行っている。又、別ユニットにて異常があった場合は、スタッフ連絡帳にて別ユニットスタッフに申し送りをして、情報の共有化をはかっている。		
2．本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映した介護計画を作成している	本人、家族からの要望などを取り入れ、専門職種との連携を図りながら、介護計画を作成している。		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の期間に応じて、見直しを行っている。必要に応じ、ケアカンファレンスを開き、話し合いをし、介護計画の見直しをしている。	○	ケアカンファレンスを定期的に行っていく方向で検討していく。

項　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 （すでに取組んでいることも含む）
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別のケース記録に記入し、朝の申し送りの前に目を通すようにしている。		
3．多機能性を活かした柔軟な支援（小規模多機能居宅介護事業所のみ記入）				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている（小規模多機能居宅介護）			
4．本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	ボランティアの受け入れ程度までしか行われていないが、年2回実施されている避難訓練には、消防署の協力を仰ぎ、実際に総合訓練を行っている。	○	近隣の地域資源で活用できるものはないのか、改めて模索していきたい。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	他のサービス事業者の活用はしていない。	○	他のサービス事業者の模索をしていきたい。
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	地域包括支援センターと協働はとっていない。	○	地域包括支援センターと連携を図って、利用者様により良いサービスを提供できるように勧めていきたい。

項　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 （すでに取組んでいることも含む）
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	当施設は、医療機関と併設されており、医師、看護師とも連絡を密にし、24時間相談可能な体制になっている。		
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	併設する医療機関から、週一回の往診があり、健康管理がなされている。必要に応じて適切な検査も受けている。		
45				
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院した場合、その後の状況について、常に医師や看護師と連携が取れる体制となっている。又、利用者様が入院された場合、必ず1日1回はスタッフが入院状況の様子を確認する為、面会を行っている。		
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	家族や医師との話し合いを持ち、医師からの指示や家族からの同意をもらい、今後の利用者様の支援を話し合って決定している。		
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	医師との相談や指示により、入院時期を決定している。又、入院時までは、医師の指示により、出来る範囲までの支援をスタッフ同士検討し、支援を行っている。		

項　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 （すでに取組んでいることも含む）
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	住み替えは、病院への入院が主であり、その際も家族や医師と密に連絡を取り合って、支援をしている。	○	当施設に入居され、自宅や他施設に転居された利用者様がいない為、今後は、他に転居されたいと要望があった時の事を考慮し、速やかに対応出来る環境を作っていきたい。
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 **1．その人らしい暮らしの支援** （1）一人ひとりの尊重				
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	スタッフ全員が笑顔を心がけ、会話中の声のトーンにも気をつけている。記録等も、全て１ヶ所にまとめ、利用者様の目に付かない様に対応している。		
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	利用者様の意思や気持ちを大切にし、あくまでも本人の意思を第一に優先しながら、スタッフはさりげない介助に努めている。		
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	家事など、利用者様のペースに合わせ、手伝いをしてもらっている。又、ＡＤＬもその人の生活に合ったペースで対応している。		
（2）その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援（53は、認知症対応型共同生活介護事業所のみ記入）				
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容･美容は本人の望む店に行けるように努めている（認知症対応型共同生活介護）	近隣に理髪店があり、ＩＡＤＬのレベルが高い利用者様は出向いて散髪をしに行かれている。施設から出向くのが困難な方には、理容師に出張してもらっている。又、昔からなじみのある店を持っている利用者様は、家族やスタッフが同行し、それらの店を利用している。		

項　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 （すでに取組んでいることも含む）
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	料理の下準備や配膳、下膳など、出来る事は手伝ってもらい、栄養士の協力により、各個人に合わせたメニューを提供している。	○	利用者様とスタッフが一緒になり、食卓を囲む状況があまり見られない為、常に一緒に食事を摂れる様な環境を整えていきたい。
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	おやつや飲み物は自由に好みの物を飲食してもらっている。たばこやお酒類はトラブルを避ける為、入居前に本人と家族に説明し、原則禁止としている。		
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排尿、便チェック表に記録し、個々のパターンや兆候を把握し、排泄の自立に向けての声掛け、誘導を行っている。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	毎日、入浴が出来る環境となっており、その日の入浴担当者が、本人の希望やタイミングを声掛けにより判断し、入浴を決定している。又、入浴拒否者や医師からの入浴禁止の指示がある方に関しては、清拭にて対応している。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	本人の生活リズムで、昼寝や就寝時間を決定してもらっている。夜間不眠者に対しては、日中声掛けをし、活動を促すことで、夜間の安眠を支援している。		
（3）その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援（認知症対応型共同生活介護事業所のみ記入）				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている（認知症対応型共同生活介護）	各利用者様の得意分野などをスタッフが把握し、それぞれに合わせて、活力ある生活が過ごせる様に支援している。		

項　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 （すでに取組んでいることも含む）
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している（認知症対応型共同生活介護）	利用者様や家族の希望により、金銭を把握し、鍵のかかるところで保管し、日用品等の買い物には一緒に行ってもらい、本人に支払ってもらっている。家族には、担当者が毎月の収支決算をし、残額報告書を作成し、配布している。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している（認知症対応型共同生活介護）	買い物や散歩などは、その日の天候や体調により判断し支援している。又、外出を嫌う利用者様に関しては、外気浴として当該施設、玄関前周辺に誘導し、お茶飲みなどを促して、室内に閉じこもらない用に努めている。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している(認知症対応型共同生活介護)	利用者様からの外出要望があった場合は、スタッフが個別に付き添い対応している。家族が付き添わなければならない状況の時は、協力を仰いでいる。		
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている（認知症対応型共同生活介護）	電話や手紙等のやり取りは、事前に家族の承諾をとったうえで、対応している。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している（認知症対応型共同生活介護）	誰でも面会の訪問は自由である。しかし、夜間の面会に関しては、やむを得ない場合を除いてはお断りしている。（利用者様が不穏になってしまう為）		
（4）安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしない支援を行っており、スタッフは身体拘束の研修にも参加し、理解を深めている。		

項　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 （すでに取組んでいることも含む）
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	フロア玄関は、利用者様が不穏でやむを得ない場合は施錠をしたケースもあったが、今は施錠しないで対応している。	○	今後、不穏でやむを得ない場合場合でも、スタッフ同士話し合い、施錠しない方向で進めていきたい。
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	常にリビング全体を見渡せる位置にスタッフを配置し、見守りを行っている。自室で過ごされている利用者様には、スタッフが交代で声掛けしに訪室し、状況を把握している。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	洗剤類や薬品類は、全て当施設で管理している。はさみなどの刃物類に関しては、家族と相談して決定しており、使用する際には、スタッフの見守りのうえで使用している。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	毎月1回の安全、感染、連絡、給食各委員会に出席し、報告、発表等を行い、事故防止に取り組んでいる。与薬に関しては、薬を準備する者と与える者とを分担し、誤薬防止に努めている。		
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	緊急時対応マニュアルを作成しており、全スタッフが共有出来る場所に張り出してある。又、看護師によるスタッフ訓練もミーティング時に日常的に行われている。		
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	当該施設独自の災害対応マニュアルを作成し、年2回の避難、火災訓練を実施している。消防署の協力を得て総合訓練を行っている為、全スタッフは119番通報から、避難誘導、初期消火まで行える。又、年1回の市消防大会にも交代で参加している。	○	消防署の協力は得ているが、地域住民との連携はとっていない為、推進委員会などで呼びかけたい。

項　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 （すでに取組んでいることも含む）
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にした対応策を話し合っている	事前に家族にはリスクと対策について説明し、日頃から状態の変化を報告し、話し合っている。	○	都合により、なかなか面会に訪れられない利用者様の家族には、日々変化しやすい状態を話し合う機会が持てない為、今後は、話し合いの場を持てる様、努めていきたい。
（5）その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎日のバイタルチェック表を作成し、起床時や入浴前など、バイタル測定を行い記入している。体調の変化が見られる利用者様がいた場合、速やかに併設する病院に報告し、指示を仰いでいる。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋ファイルを作成し、服薬については、準備する人と毎食後に配布する人とを分担し、ダブルチェック方式を取り入れており、利用者様が薬を飲むまで見守り、チェック表に確認のサインをしている。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	排泄記録表にて個々の排泄パターンを把握し、下剤の必要な方には、主治医と相談し、コントロールしている。飲食物に関しては、栄養士に排便しやすい食物の情報を助言してもらっている。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	食後や就寝前に、声掛けにより口腔ケアを行ってもらっている。ケアの困難な方には、スタッフが介助している。又、併設する医療機関のＳＴから、週2回の指導を受けている。		
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事に関しては、全て栄養士が管理をしており、スタッフとの話し合いで、個別にも対応をしている。水分量も、毎日水分チェック表に記入し、水分量を一目で把握出来る様にしている。		

項　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 （すでに取組んでいることも含む）
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、ＭＲＳＡ、ノロウイルス等）	日々の手洗い、うがい等の徹底。汚物などは、ゴム手袋での対応を義務付けており、利用者様、スタッフ共にインフルエンザワクチンの接種や検便検査などを行っている。又、月1回の感染委員会に出席して、予防や対応策を確認している。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	毎日、食材は使い切ることで対応し、生物には調理用温度計で測定して、十分火を通している事を確認している。調理器具やキッチン周りなどは、夜勤者が毎日塩素系溶剤やアルコールなどで消毒を行っている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり **（1）居心地のよい環境づくり**				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関前やベランダに、季節の鉢植え等が設置され、和やかな雰囲気作りをしている。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	廊下、リビング、居室の入口等に、利用者様が作成した装飾品や、手作りの日めくりカレンダー等を置き、家庭的な雰囲気と清潔感のある共有空間作りに配慮している。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間にソファーを設置しており、気のあった利用者様同士で話をしたり、テレビを見たりできるようになっている。		

項　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 （すでに取組んでいることも含む）
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族等の協力を得て、自宅で使用していた馴染みのある物を持ち込んで、本人が居心地よく思えるような居室作りになっている。（食器類、衣類、布団、家具など）		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	定期的に換気を行い、冷暖房機器や加湿器などで、温度や換気の調節を行っている。		
（2）本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	共有空間、浴室、トイレ、居室内、廊下などに手摺りが取り付けられており、それらにて対応している。又、各居室には、非常時ボタンが設置されており、非常時には活用するようにしている。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	自室やトイレなどには、分かり易い目印などを掲げ、スタッフも必要以上に介助せず、声掛け、見守りを主として、さりげない誘導を心掛けている。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	ベランダや建物の外周りには、鉢植え程度しか出来ない設計となっている為、大きな活動は困難となっている。	○	近隣で活動が出来る空間があるかどうか、探索していきたい。

（　　部分は外部評価との共通評価項目です　）

Ｖ．サービスの成果に関する項目

項目		取り組みの成果 （該当する箇所を○印で囲むこと）
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の２/３くらいの ③利用者の１/３くらいの ④ほとんど掴んでいない ⑤その他（　　）
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	①毎日ある ②数日に１回程度ある ③たまにある ④ほとんどない ⑤その他（　　）
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の２/３くらいが ③利用者の１/３くらいが ④ほとんどいない ⑤その他（　　）
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の２/３くらいが ③利用者の１/３くらいが ④ほとんどいない ⑤その他（　　）
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の２/３くらいが ③利用者の１/３くらいが ④ほとんどいない ⑤その他（　　）
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の２/３くらいが ③利用者の１/３くらいが ④ほとんどいない ⑤その他（　　）
94	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の２/３くらいが ③利用者の１/３くらいが ④ほとんどいない ⑤その他（　　）
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	①ほぼ全ての家族と ②家族の２/３くらいと ③家族の１/３くらいと ④ほとんどできていない ⑤その他（　　）
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない ⑤その他（　　）

項　目		取り組みの成果 （該当する箇所を○印で囲むこと）
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない ⑤その他（　　）
98	職員は、活き活きと働けている	①ほぼ全ての職員が ②職員の２/３くらいが ③職員の１/３くらいが ④ほとんどいない ⑤その他（　　）
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の２/３くらいが ③利用者の１/３くらいが ④ほとんどいない ⑤その他（　　）
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の２/３くらいが ③家族等の１/３くらいが ④ほとんどできていない ⑤その他（　　）

【特に力を入れている点・アピールしたい点】
（この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。）

・利用者様の生活パターンに合うように、又、利用者様の要望に出来る限り応じることが出来る様に努めている。
・リハビリの必要な利用者様は、定期的にリハビリを施行している。又、状態に応じ、ＰＴにホームへ来てもらっている。
・毎月、行事はあるが、大きな行事は、2ユニット合同で行っている。
・月に１回、近隣の保育所との交流を実施し、利用者様と園児との関わりをもっている。
・隣接された病院と常に連携を図り、利用者様の急変時など、速やかに対応できるようになっている。